九月 月浪能特別会

九月十一日（日）
午後一時始
正午開場
於 宝生能楽堂

13:00 鷺

- シテ　前田尚廣
- 子方　内藤瑞駿
- ワキ　宝生欣哉
- ワキツレ　殿田謙吉
- 〃　則久英志
- 〃　宝生尚哉
- 〃　小林克都
- 〃　吉田祐一
- 〃　野口能弘
- 〃　梅村昌功
- 間　善竹大二郎
- 大鼓　亀井実
- 小鼓　幸信吾
- 太鼓　三島元太郎
- 笛　藤田次郎
- 後見　中村孝太郎　武田孝史
- 地謡　藪克徳　亀井雄二　髙橋憲正　小倉伸二郎　佐野登　佐野由於　東川光夫　水上優

13:40 富士松

- 善竹十郎
- 大藏吉次郎

（休憩十五分）

14:20 松風 見留

- シテ　金森秀祥
- ツレ　大友順
- ワキ　福王和幸
- 間　大藏教義
- 大鼓　國川純
- 小鼓　観世新九郎
- 笛　藤田朝太郎
- 後見　大坪喜美雄　朝倉俊樹　澤田宏司
- 地謡　金森良充　佐野玄宜　和久荘太郎　渡邊茂人　辰巳満次郎　小林与志郎　田崎隆三　小倉健太郎

（休憩十五分）

16:35 石橋

- シテ　金野泰大
- ツレ　朝倉大輔
- ワキ　御厨誠吾
- 大鼓　安福光雄
- 小鼓　飯田清一
- 太鼓　小寺真佐人
- 笛　栗林祐輔
- 後見　宝生和英　野月聡　内藤飛能　辰巳大二郎
- 地謡　金森隆晋　佐野弘宜　當山淳司　東川尚史　山内崇生　今井泰行　髙橋亘　小林晋也

終演予定十七時三十五分頃

演目の解説

能「鷺」（さぎ）

神泉苑に御幸があり、池のほとりで涼をとる帝は、洲先に一羽の鷺を認め、臣下に捕らえて来るよう命じます。臣下は更にその由を蔵人に命じます。蔵人は臣下に対し、飛行自由な鳥がどうして捕まりましょう、と困惑しますが、勅諚なのだからと押し切られてしまいます。仕方なく蔵人が芦の陰より近づきますが、鷺はパッと飛び上って捕まえられません。そこで蔵人が下より鷺に向かって勅諚の由を言い聞かせると、鷺は神妙に舞い戻って帝に従います。喜んだ帝に五位の爵を授けられた鷺は、また大空に飛び立って行くのでした。

能「松風」（まつかぜ）

旅の僧が須磨の浦にやって来ます。日が暮れたので、海人の塩屋を見つけ主を待っていると、二人の女性が塩を汲みながら帰って来ました。二人に宿を借り、行平の松を弔った話をすると、二人は働哭し、行平が須磨の浦にいたときにおそばに仕えた松風村雨と名乗ります。二人は行平を懐かしみ、松風は形見の衣装を身にまとい舞を舞いますが、僧に弔いを頼むと、明け方に去って行きます。

能「石橋」（しゃっきょう）

大江定基は出家して寂昭法師と名乗り、唐に渡り清涼山に至り、文殊の浄土へ懸かる石橋のもとに着きます。そこに通りかかった樵童は、寂昭が渡ろうとするのを止め、橋の謂われを語り、渡ることの困難さを示し、やがて奇瑞を見ることになるだろう、暫くここで待てと告げて去って行きます。すると荘厳な音楽が始まり、文殊菩薩の霊獣である獅子が現れ、豪快に獅子舞を舞います。

チケット料金
（税込）

S席	13,200円
A席	11,000円
B席	9,900円
C席	8,800円
D(自由)席	6,600円

ご購入は、各能楽師
または
オンラインチケット
・宝生会事務局まで

文化庁文化芸術振興費補助金
（舞台芸術創造活動活性化事業）
独立行政法人日本芸術文化振興会